

研究・調査報告書

報告書番号	担当
191	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
<p>Diet and lifestyle factors associated with premenstrual symptoms in a racially diverse community sample: Study of Women's Health Across the Nation (SWAN). 様々な人種の地域ベース集団における閉経前症状と食事・生活習慣の関連について: Women's Health Across the Nation (SWAN)研究</p>	
執筆者	
Gold EB, Bair Y, Block G, Greendale GA, Harlow SD, Johnson S, Kravitz HM, Rasor MO, Siddiqui A, Sternfeld B, Utts J, Zhang G.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
J Womens Health (Larchmt). 2007 Jun;16(5):641-56. Erratum in: J Womens Health (Larchmt). 2007 Jul-Aug;16(6):934.	
キーワード	
閉経前症状、飲酒、断面調査、民族間の違い	
<p>要 旨</p> <p>目的： 自己申告による身体的感情的閉経前症状が(1)食物より摂取する植物性女性ホルモン、繊維、脂肪、もしくはカルシウム (2)アルコールもしくはカフェインの摂取 (3)能動もしくは受動喫煙、運動をしていないこと (4)人種/民族もしくは社会経済的地位 と関連があるかについて検討する。</p> <p>方法： Women's Health Across the Nation (SWAN)研究の様々な民族構成からなる中年女性3302人を対象に、閉経前症状と食事に関する特定の項目もしくは生活習慣の関連について断面調査を行った。解析手法はステップワイズ多重ロジスティック回帰分析を用いた。閉経前症状は5項目にまとめ、全対象者を対象とした分と人種/民族ごとに分けた分で解析を行った。</p> <p>結果： ほとんどの食事に関する項目は閉経前症状と無関係であった。脂肪摂取が多いほど過食傾向や浮腫は少なかった (調整オッズ比(AOR) 0.56、p 値 0.024)。繊維を多くとるほど乳房の痛みは多かった (AOR 1.39、p 値 0.037)。アルコール摂取が多いほど不安や気分の変調は少なく (AOR 0.63、p 値 0.045)、頭痛も少なかった (AOR 0.50、p 値 0.009)。こむらがえりや背部痛は現在喫煙 (AOR 0.63、p 値 0.045)、受動喫煙 (AOR 1.56、p 値 0.050) と関連があった。症状を訴える率は人種/民族で有意に異なった。乳房の痛み以外は閉経前症状と並存する症状の数が多きほど閉経前症状の訴えは多く、閉経に近い状態にいる人ほど、うつ症状があるほど、症状の感受性が強いほど閉経前症状の訴えが多かった。</p> <p>結論： 閉経前症状の訴えと食事に関する項目との間に関連をみつけることはほとんどできなかった。アルコール摂取が多いほど不安や気分の変調は少なく、どのような形で喫煙していれば閉経前症状が多い傾向にあった。また症状の訴えに関して人種/民族で差があり、閉経前症状と並存する症状の数、閉経に近い状態であること、うつ症状また症状に対する感受性と閉経前症状に関連があることがわかった。</p>	